

平成 30 年度 短期大学生調査について

神戸女子短期大学

自己点検・評価委員会、IR 部会

I 調査の概要

(1) 調査の目的

本調査は、自己点検・評価の一環として、学生が本学の教育等についてどのように受け止めているか、またどのような学生生活を送っているか等を把握し、今後の神戸女子短期大学（以下、本学とする）のありかたを考える基礎データにすることを目的とする。

学生への調査は、短期大学基準協会のアンケート調査項目を実施した。

(2) 調査対象

総合生活学科、食物栄養学科、幼児教育学科の 3 学科の 1 年生、2 年生 538 名全員を対象とした。

(3) 調査方法／調査時期

質問紙を配布し、その場で回収という方法でのアンケート調査を実施した。カレッジアワーで実施する等、回収率を上げるために、各学科が最もよい時間帯に行った。回収率は、97.8%（526 名の回答）であった。

調査時期：平成 30 年 11 月

(4) 調査結果について

- ・設問(7)については、学生の入力ミスと考えられる。
- ・設問(8)について、AO 入試での入学者が、本学の昨年度人数と全体の人数と比較しても、若干上回る傾向がみられ、30%以上である。
- ・設問(9)について、家族や親戚からの薦め、入学決定時期の早さ、オープンキャンパスでの印象が重視される傾向がある。特に学べる分野・内容を重視して本学を選択している傾向がみられる。学費の面で短大を選択した学生は 70%を越えている。全体をみても就職に有利な資格の取得については、重視される傾向がある。
- ・設問(11)について、体験的な学習が多く 80%を上回り、キャリア教育に関しても他大学より多くなっている。
- ・設問(12)について、他大学に比べて、授業に関する勉強（予習・復習・宿題）、授業に関係ない（自主的な）学習の時間が少ない。
- ・設問(13)について、他大学に比べ、就職や編入学などの進路相談をする機会が多い。一方、学校以外のことについて相談する機会が少ない。教員の研究プロジェクトに関わる機会が少ない。
- ・設問(15)について、他大学に比べ、学校行事の委員や運営スタッフ・地域貢献・ボランティア活動等が多いが、サークルや部活、その他の学生団体活動に参加する機会が少ない。
- ・設問(17)について、「満足」「やや満足」の合計では、他大学に比べて施設やサービスは、全てにおいて満足度は高い。
- ・設問(18)について、「本学の教育」については、教養教育、専門教育、キャリア教育について他大学より満足している学生がかなり多い。
- ・設問(19)について、一般的な教養や専門分野の知識、他の人と協力する力や文章を書く力、PC を使う力に関して、他大学より増えたとする学生が多い。就職活動に必要なキャリア意

識、自己理解やスケジュール管理能力なども、他大学より身につけたと考えている学生が多い。外国語を使う力に関しては、他大学より低い。

- ・設問(20)について、本学で保育士、幼稚園教諭、栄養士の資格が取得できる学科があることを反映し、保育・子ども系、食・栄養系に進むことを考えている学生がかなり多い。ビジネス・経営系やアパレル・ファッション系なども、専門分野として学べるため、将来の職業の選択肢として入っている。
- ・設問(21)について、学内独自の奨学金や学費（授業料）免除などの支援を受けている割合が、本学は、他大学に比べてかなり少ない。
- ・設問(22)について、親が学費の全学を支払っている割合が、本学は、他大学に比べて多い。
- ・設問(23)について、「学生生活が充実している」と答えた割合が、本学では、他大学に比べて多い。
- ・設問(24)について、「自分が進学した短大を友人等にすすめられる」と答えた割合は、本学では他大学に比べてかなり多い。
- ・設問(25)について、短大の総合評価として「親しみやすい、一体感を感じる」と答えた学生の割合は、他大学に比べて、かなり高い。

以上